

日水産経済新聞

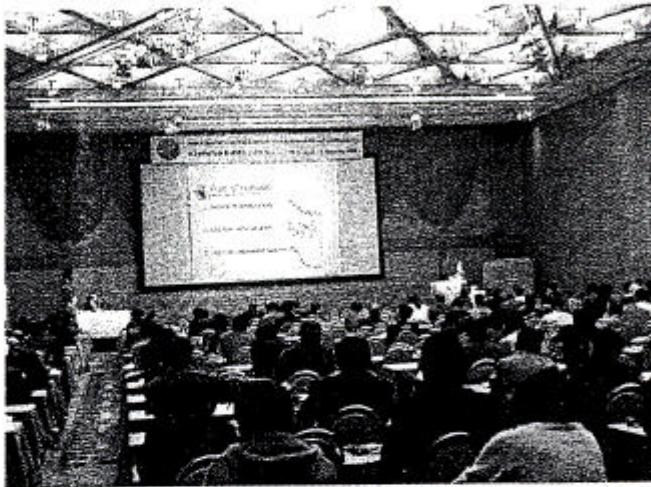
THE SUISAN-KEIZAI
(昭和26年7月11日第3種郵便物認可)

2月5日
2002年(平成14年)

発行所
水産経済新聞社

東京都港区六本木6丁目8番19号
電話 03-3404-6531 FAX 03-3404-0866
郵便番号 00160-6-92557番

(土、日、祭日は休刊)



神戸で開かれた第2回栽培漁業国際シンポジウム

【神戸】水産庁と日本栽培漁業協会は1月19日～20日、兵庫県神戸市の神戸ポートビル

第2回栽培漁業国際シンポジウム 優秀発表者に益田氏(助手)

大きな成果得て閉幕

アートホテルで第2回栽培漁業国際シンポジウムを開催した(一部断片)。会場には二十九か国から当初予定より百人多い約四百人の科学者が出席し、栽培漁業にかかる技術的・政策的課題および先進的実例の紹介などについて熱心な講演、討論などが行われた。最終日には今回のシンポジウムを通して表彰が行われ、優秀口頭発表に京都大学の益田玲爾助手、優秀ポスター発表に東北大学の菅谷琢磨大学院学生が、また、優秀若手科学者にノルウェーのAnn Lisbeth Agnaltさんが選ばれた。

最終日の講演では、日栽培漁業の古澤徹常務が、今回の形

で、日栽培として課題をまとめ、さらに今後、栽培漁業を進めていくうえでの方針を示した。この発表で古澤常務は「最終目標は、放流資源と天然資源をうまく譲り合させて包括管理し、資源を持続的に利用していくことだ。将来的にも監視と評価の体制整備は重要と考えている」などと述べた。

また、すべての講演を終えた後、「種苗性と効果的な放流技術」をはじめ、「種

ねばならない」などと、さらに「種苗性と効果的な放流技術」をはじめ、「種

の疾患と健全性管理」「放流効率の評価手法」「栽培漁業における資源管理」「天然魚と放流種苗との生態学的相互作用」「天然魚と放流魚の遺伝学的管理」「栽培漁業の社会・経済的側面」「栽培漁業の実例研究」などについて、今回のシンポジウムの成果と課題を報告し、最後に「次回シンポジウムは米田で三、四年後に開催する」と発表した。